魅力発見

ふるさと歴史散歩

「高磯崎大砲場見学ツアー」

【日程】9：30 郷土館集合（日程説明と諸準備：トイレ休憩あり）9:45⇒10:00 さつき食堂駐車場→高磯崎→北浜街道→高磯崎大砲場跡、トド島見学⇒12：30 現地解散

1　高磯崎大砲場跡を見に行こう！

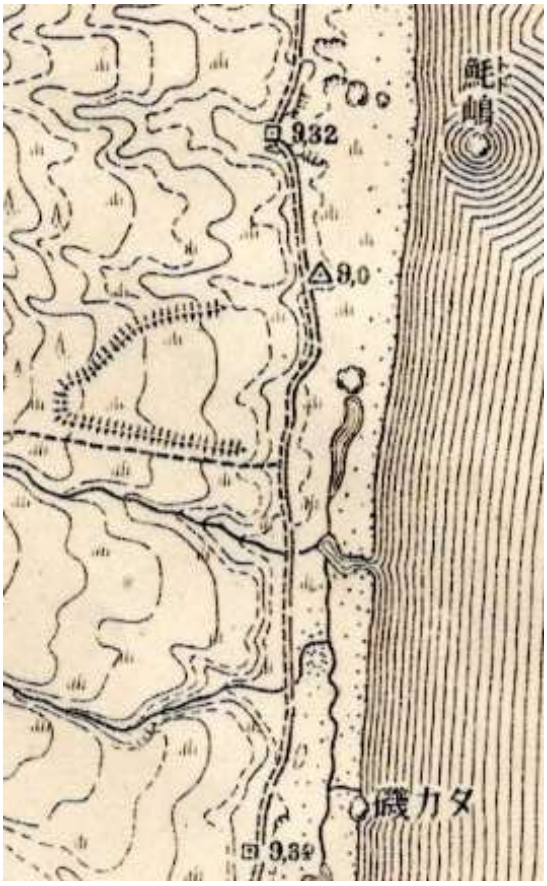
出戸地区にある盛岡藩の外国船に対する海岸防備の大砲場跡である高磯崎大砲場を見学します。村内には盛岡藩が幕末につくった大砲場跡は 10 か所あり、その内でもこれは一番古いものと考えられています。村唯一の島「トド島」や高磯崎も見学します。

（1）　高磯崎大砲場跡

江戸時代の文政元年（1818年）に、海岸防備に詳しい盛岡藩士**漆戸茂樹**が、**『北奥路程記』**を著している。この書は、盛岡城以北から下北半島の先端に至るまでの見取り図付きの地理案内書である。

その一説に「泊より尾駮へ三里半」の中で「・・・古川より四百間行きて磯中にトド島という岩島あり。・・トド島の所より三百間過ぎてシナシ川、又三百間行きて北川、又三百間行きて南川、右に大砲場、左に**高磯崎**という。但この大砲場、人家手遠につき泊村出抜け、六角に差し置かれ候よし。」と、解説されている。現在の泊漁港の西側に、湊を見下ろすことのできる海成段丘の上に**六角**という場所があり、幕末の1854年以降に移設されたらしい。

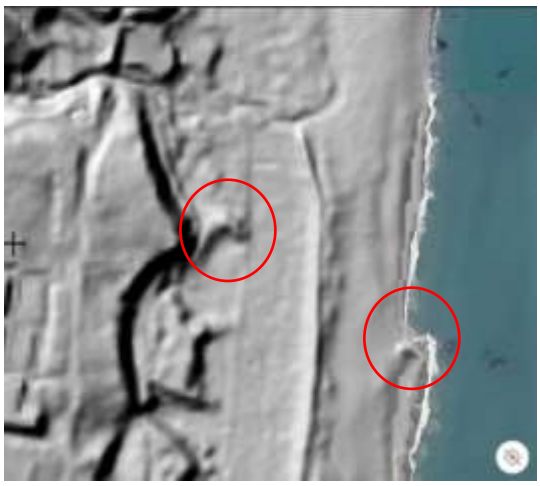
ちなみに、六ヶ所村には、泊の中山崎に3カ所、館ノ上と六角に1カ所ずつ、尾駮に1カ所、平沼に3カ所に大砲場が造られている。この**高磯崎大砲場**は、縄文時代(約9,000 年～約6, 000年前)の砂丘を利用して、造られている。



トド島とタカ磯

「出典：帝国陸軍陸地測量部地図（大正 6 年）」

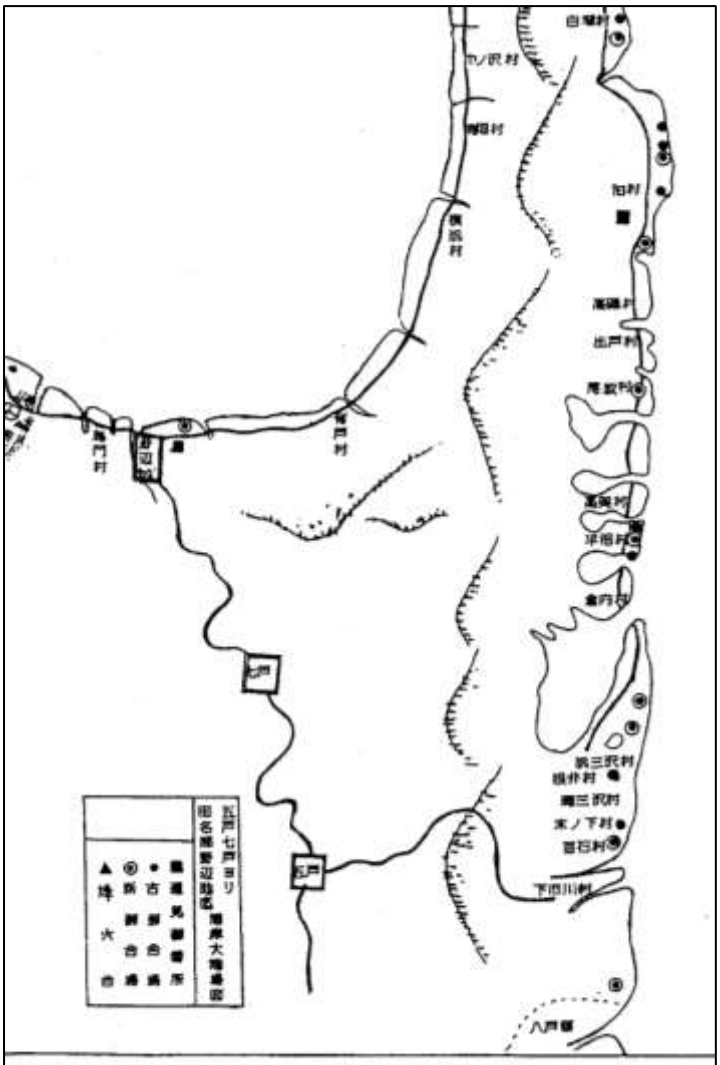
高磯崎大砲場跡と標柱



高磯崎大砲場跡とタカ磯

「出典：国土地理院陰影起伏図一部修正」

2　江戸時代の海岸防備：遠見番所と砲台跡



五戸七戸ヨリ田名部野辺地迄海岸大砲場図（盛岡市中央公民館蔵）より

江戸時代初期から北浜街道泊村には、外国船の見張りにあたる**浦番所**が 1 ヵ所、**御台場**が 1845（弘化 2）～48（嘉永元）年に築造、1856（安政 3）年には新旧合わせて 9 カ所に置かれていた。

(1)1644（寛永 21）年 4 月 26 日以降、盛岡藩は 20 カ所の**浦番改め**を行い、**同心を派遣**している。北浜街道には、5 カ所。八戸物見崎、六戸浜根井、**東浦のうち泊**、田名部のうち尻屋、同所尻労の 5 カ所に浦番所が置かれていた。

(2)1699（元禄 12）年「郷村古実見聞記」**泊ノ崎と中山崎**の 2 カ所。泊村上町**六助**に御普請申付候。

(3)1804（文化元）年、南部領全体で 10 カ所に減り、北浜街道では**泊**と志利屋の 2 カ所に減少。

(4)1808（文化 5）年、正月、領内海岸警備の員数を幕府に届けた。**七戸浦** 192 人近村の**猟夫に鉄砲**を交付。非常の場合警備隊に参加させることとした。

(5)1849 年（嘉永 2）年、七戸代官所の職制に、泊村**遠見御番人**として 3 人の御給人が指名されている。

(6)1856（安政 3）年 4 月、公儀の達に基づき、**南部藩主利剛が領内を、漆戸茂樹を共に連れ巡視**し、泊、尾駮、平沼で台場を検分（遠浅を批判）。**泊の台場**では射撃を試み、田名部大間沖では砲艦の演習を行わせ、6 月 1 日に盛岡に帰っている。

(六ヶ所村史上巻Ⅱ　第 18 章より)

注 1）**南部 利剛**（としひさ：1826 年～1896 年）は、陸奥国盛岡藩の第 15 代藩主。 第 13 代藩主・南部利済(としただ)の三男。利済のころに築いた華美な新御殿や津志田の遊郭を廃止。自身の 1 年間の費用を 210 両とし，平素は木綿を用い，油を**節約**するために夜食後は燭台を行灯に換えたと言われている。また**北方警備の強化**にも努め，守備隊を派遣するなど国事に尽くし，中将に任ぜられた。藩の教育振興にも力を注ぐ。1865(慶応元)年，藩校明義堂を拡張して作人舘と改称，文学・武芸・医学 3 科の**教育体制を整備**。洋学校日新堂の開設を援助。原敬など明治以降に活躍した優秀な人材が多数輩出された。しかし，藩政再建に関して家老の楢山佐渡と，同じく家老で極端な改革を進める東政図（まさみち：中務）が対立するなど，藩政は迷走。1868 年(慶応 4 年)に盛岡藩が**戊辰戦争に敗れ**，利剛は謹慎を命ぜられて東京へ護送される。そして同年 12 月に藩主の座を退き，嫡子利恭(としゆき)に家督を譲った。温厚で情義に厚く，茶道や能楽，和歌などにも精通。歌集『桜園集』を残す。(盛岡市ＨＰより)

3 トド島(鮎島)

青森県には、14 の島があり、八戸の蕪島や夏泊の大島、浅虫の湯ノ島や亀の形に見える鴎島(ごめじま)が有名。なんと六ヶ所村にもたった一つの島、「トド島」がある。大正6年の地図にも、ちゃんと記載されている。

☆なぜ「トド島」という名前が付いたのか？

1 昔、トドやアシカが住み着いていたから？

2 海からちょこんとトドが顔を出しているように見えるから？

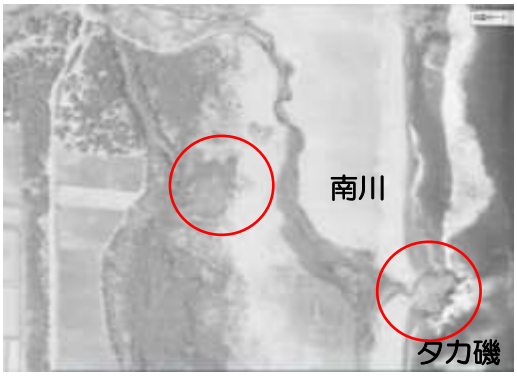
Q:みなさんは、どのように考えますか？

六ヶ所村唯一の島「トド島」

4 タカ磯

トド島の約2km南側に、ゴジラが上陸してくるように見える「タカ磯」もある。南川の河口にあり、少し黒っぽくごつごつした岩が目立つ。日本列島がユーラシア大陸から引きちぎれて、現在の位置に流れ着いた約 1,600 万年前の中期中新世に、激しく海底火山の噴火があり、その後、隆起して、泊地区西側の山々ができた。海底火山の噴火の際、溶岩が貫入してできた玄武岩質安山岩層が、波の浸食により周りが削られ、固い岩が波間に露出したと考えられる。トド島も同じく形成されたと思われる。1970年の国土地理院撮影空中写真では、南川の河口がタカ磯にあり、海に張り出し磯を形成している。まさに高磯崎である。1975 年には南川河口は北上している。

トド島の南にある「タカ磯」



南川とタカ磯

「出典　国土地理院撮影空中写真（1970 年）」

5 北浜街道(東通り)

昔、尾駮村や出戸村から泊村に行く街道は、現在の国道338号線ではなく、10m程海側に北浜街道(田名部から八戸城下)があった。現在もその面影が残っている。通りの西側に土塁のような所もあり、その道を、漆戸茂樹は絵図を書きながら通ったと思われる。

高磯崎大砲場跡とタカ磯

「出典　国土地理院撮影空中写真（1975年）」

高磯崎大砲場跡と北浜街道(東通り)

昭和の時代には、出戸の人は、泊に歩いて行くとき、この浜沿いの道を行ったそうだ。昔の街道の風情を感じられる。